

ICP-OES (SEIKO SPS3500)

利用する上での注意点

- ・ 本装置は、すぐに分析できる状態まで前処理を行った試料を持参し、利用者本人に分析して頂くことを原則とします。また、定量分析の際に使用する標準液は、各自ご準備ください。装置を使用して分析する場合には、必ず使用講習（指導）を受けてから行うようにしてください。装置としては可能な操作でも、本装置の運営上行わないこともあります。
- ・ 操作の過失による装置の破損は、修理費用を負担して頂きます。
- ・ 前処理はサンプルを酸分解などしたのちに溶液とし、フィルター(0.45 μm)をかけたものとし、試料に土壌成分（微細な鉱物やシリカの粉など）などが混入していると、ネブラライザーの詰まりの原因となり、高価な修理費用が発生します。
- ・ 有機溶媒を含んだ試料はプラズマを不安定にし、測定できない可能性があります。また、フッ化水素を含む試料の分析は現在行っておりません。
- ・ 廃液は、各人が持ち帰るようにしてください。また、基本的に東京大学で廃棄処理を行っていない元素(Os, Tl, Be)の分析は禁止します。分析する元素については必要に応じてご相談ください。
- ・ 使用記録は必ず記載するようにしてください。（使用前のガスのボンベ圧、使用時間、分析金属など）
- ・ 試料の測定後は、必ず 5 分程度プラズマを点灯した状態で純水で洗浄するようにしてください。また、廃液チューブに残存した溶液はペリスタポンプですべて排出してください。最後に、使用後はペリスタポンプのチューブを装置から外すようにしてください。装置の温度調節電源スイッチは切らないで下さい。
- ・ トラブルが発生した場合は、装置に記載している連絡先にすぐに報告するようにしてください。
- ・ 使用料金使用時間に応じて 100 円/分 課金します。
- ・ 依頼分析は少数のサンプルについては共同研究としての分析を行う可能性があります。ご相談下さい。

- ・ 連絡先 atorufu@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp（藤原 徹）